

11 専攻科目

(施設野菜専攻)

105	施設野菜栽培概論	(1年)
106	施設野菜栽培各論	(2年)
107	施設野菜機械施設	(1年)
108	施設野菜機械施設利用演習	(1年)
109	施設野菜先端技術演習	(2年)
110	施設野菜病虫害対策演習	(2年)
111	施設野菜加工演習	(2年)
112	青果物流通論	(2年)
113	専攻実習	(1年)
114	専攻実習	(2年)

整理番号： 105

科目名： 施設野菜栽培概論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	トマト、ナス、メロン、キュウリ等主要な施設野菜の基礎的知識を学習する。
授業の方法	①主要な施設野菜の生理生態について、各作目毎に講義を行う。 ②野菜の栽培ステージに応じた、管理方法や栽培技術について基礎講義を行う。
到達目標	①主要な施設野菜の基本的な生理生態を履修する。 ②主要な施設野菜の栽培管理や基本的な栽培技術を履修する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	野菜栽培の基礎	池田 英男、川城 秀夫	農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	施設野菜園芸の歴史と動向	2
2	県下主要施設野菜の作型、品種及び栽培方法	2
3	養液栽培技術の基礎	2
4	施設野菜の連作障害対策	2
5	主要施設野菜の生理生態	2
6	果菜類の育苗技術	2
7	果菜類の環境調節技術	2
8	効果試験	1
9		
合計		15

整理番号： 106

科目名： 施設野菜栽培各論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	トマト、ナス、メロン、キュウリ等の主要施設野菜に関する生理・栽培技術を学習する。
授業の方法	①主要な施設野菜の生理生態に適した管理方法について、各作目毎に講義を行う。 ②野菜の栽培ステージに応じた、管理方法や栽培技術について基礎講義を行う。
到達目標	①主要な施設野菜の生理生態を修得する。 ②主要な施設野菜の栽培管理や栽培技術を修得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	野菜栽培の基礎	池田 英男、川城 秀夫	農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	トマト・ミニトマトの生理生態	2
2	トマト・ミニトマトの栽培技術	2
3	ナスの生理生態	2
4	ナスの栽培技術	2
5	メロンの生理生態	2
6	メロンの栽培技術	2
7	キュウリの生理生態と栽培技術	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 107

科目名： 施設野菜機械施設

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	施設野菜栽培に必要な機器や施設に関する知識について学習する。
授業の方法	①専攻実習中に施設装置、機器の操作方法に関する説明を行う。 ②外部講師によるボイラー点検の講義を行う。
到達目標	①施設野菜栽培に必要な施設装置、機器の操作方法を履修する。 ②ボイラーの点検方法を履修する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	集出荷に必要な機器の種類	2
2	環境・給液制御器の種類、構造	2
3	暖房機の種類、構造	4
4	温室の種類、構造	4
5	育苗に必要な機器の種類、構造	2
6	試験	1
合計		15

整理番号： 108

科目名： 施設野菜機械施設利用演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	施設野菜栽培に必要な施設装置、機器に関する利用、操作方法について習得する。
授業の方法	①専攻実習中に施設装置、機器の操作方法に関する演習を行う。
到達目標	①施設野菜栽培に必要な施設装置、機器の基本的な操作方法を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	実習態度で100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	集出荷施設の利用方法 作目ごとの出荷規格の認識・包装資材の取り扱い	4
2	温室管理方法 各温室の換気温度、暖房温度、カーテン制御、灌水時間間隔、異常事態の認識と対処方法	4
3	動力噴霧器の使用法 保管場所、構造、能力比較、操作方法と注意点、禁止行為、農薬散布の実際	2
4	暖房機の保守点検、利用操作方法 ・シーズン開始時の点検、整備方法、構造、操作方法と注意点、禁止行為、異常事態対処法 ・シーズン終了時の点検、整備方法	4
5	夏の温室管理方法 各温室の換気温度、細霧冷房装置、遮光カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	4
6	養液栽培装置の利用、操作方法 装置・施設の構造、EC・温度・灌水量・灌水時間間隔	4
7	冬の温室管理方法 各温室の換気温度、内張など保温方法	2
8	育苗施設の利用方法 育苗・接木に用いる資材、接木の養生方法、温度・湿度管理、遮光方法	4
9	耕耘機の利用方法 保管場所、耕耘機の構造、操作方法と注意点、禁止行為、耕耘の実際	2
合計		30

整理番号： 109

科目名： 施設野菜先端技術演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験
松浦 元樹	有	農業総合試験場職員

授業の目的及び内容	施設野菜栽培において実用化された先端技術を学習する。
授業の方法	①外部講師による講義を行う。 ②主要な施設野菜の先進的な施設や先進農家を視察し、その技術や経営を学ぶ。
到達目標	施設野菜栽培において実用化された先端技術を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	レポート100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	野菜試験研究の現状、トマト、メロン栽培技術	4
2	野菜の先端技術の現状と課題	4
3	施設野菜産地の先進事例調査	4
4	野菜の農薬開発・製造の最前線	4
5	養液栽培、養液土耕栽培の最新技術	8
6	施設野菜のICTを活用したスマート農業の栽培技術	4
7	接木苗生産システム	2
合計		30

整理番号： 110

科目名： 施設野菜病害虫対策演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験
石川 博司	有	農業総合試験場職員

授業の目的及び内容	施設野菜を加害する害虫、病害に対する防除方法、防除技術について学習する。
授業の方法	①外部講師による講義を行う。 ②専攻実習中に各作目の病害虫及び防除に関する説明を行う。
到達目標	施設野菜を加害する害虫、病害に対する基本的な防除方法、防除技術について修得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	レポート100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	果菜類の病害虫防除計画	4
2	トマトの病害、虫害と防除、薬剤散布方法	4
3	ナスの病害、虫害と防除、薬剤散布方法	4
4	メロンの虫害、病害の防除、薬剤散布方法	4
5	野菜の病害虫とその防除技術	4
6	土壌消毒法	6
7	生物農薬の利用方法	4
合計		30

整理番号： 111

科目名： 施設野菜加工演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験
井川 千春	有	学識経験者

授業の目的及び内容	施設野菜の加工特性を理解し、その栄養価及び加工法を学習する。
授業の方法	①外部講師の指示に従って調理を行う。 ②野菜の特性と栄養基礎知識を説明する。
到達目標	施設野菜の加工特性を理解し、その栄養価及び加工法を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	演習態度100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	ナスの加工と利用方法	8
2	トマトの加工と利用方法	8
3	キュウリの加工と利用方法	8
4	消費者の求める商品づくり	6
合計		30

整理番号： 112

科目名： 青果物流通論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験
荒木 昌彦	有	外部講師（愛知中央青果(株)）

授業の目的及び内容	青果物の流通機構及び流通実態について学習する。
授業の方法	①外部講師による野菜の消費動向や流通に関する講義を行う ②校内の直売や施設野菜の出荷を実施する。
到達目標	①青果物の流通に関して、基本的な知識を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	理解度（レポート）100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	流通機構の仕組み	4
2	流通の実態と問題点	3
3	野菜の消費動向と愛知県産野菜の課題	4
4	有利販売のためのマーケティング力	4
合計		15

整理番号： 113

科目名： 専攻実習（1年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	10	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	主要施設野菜について栽培計画の樹立と栽培管理、生産物の販売を自ら行うことにより栽培および経営管理技術を学習する。
授業の方法	指導職員による主要施設野菜の講義と実習
到達目標	施設野菜栽培に必要な基本的な栽培知識と技能を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	実習態度100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内容		時間
1	基礎的な栽培技術（4月）	トマト及びナス・メロンの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	14
2	基礎的な栽培技術（5月）	トマト及びナス・メロンの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	70
3	基礎的な栽培技術（6月）	トマト及びナス・メロンの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	64
4	基礎的な栽培技術（7月）	トマト及びナス・メロンの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	38
5	基礎的な栽培技術（9月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	30
6	基礎的な栽培技術（10月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	46
7	基礎的な栽培技術（11月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	45
8	基礎的な栽培技術（12月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	34
9	基礎的な栽培技術（1月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	61
10	基礎的な栽培技術（2月）	トマト及びナス・キュウリの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	34
11	基礎的な栽培技術（3月）	トマト及びナス・メロンの栽培、灌水、施肥、生育状況の観察及び出荷	14
合計			450

整理番号： 114

科目名： 専攻実習（2年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	12	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	施設野菜専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
嶋本 千晶	有	農業総合試験場職員11年経験
小島 優作	有	普及指導員4年経験

授業の目的及び内容	①主要施設野菜について栽培計画の設計と栽培管理、生産物の販売を自ら行うことにより栽培および経営管理技術を学習する。 ②プロジェクト活動の結果をまとめ卒論を作成する。
授業の方法	指導職員による主要施設野菜の講義と実習を行う。 卒論の作成方法を指導する。
到達目標	施設野菜栽培に必要な基本的な栽培知識と技能を習得する。卒論を完成させる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	実習態度100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内 容		時間
1	実践的な栽培技術（4月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	42
2	実践的な栽培技術（5月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	73
3	基礎的な栽培技術（6月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	71
4	基礎的な栽培技術（7月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	53
5	基礎的な栽培技術（9月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	54
6	基礎的な栽培技術（10月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	76
7	基礎的な栽培技術（11月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	70
8	基礎的な栽培技術（12月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	66
9	基礎的な栽培技術（1月）	施設管理、栽培管理、プロジェクト学習	35
合計			540